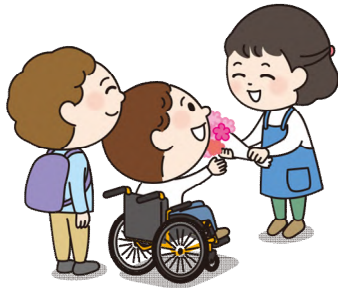


■ P 4、5 詳細の解説

▼ 1



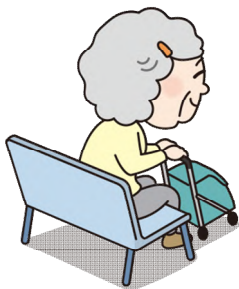
車いすの人が店員さんに、花を注文しましたが、前のページでは、店員さんが、花をとなりにいた人に渡しました。車いすの人や、目が見えない人などは、まわりにサポートをする人がいる場合がありますが、最初からサポートする人に渡してしまわずに、注文をした本人である車いすの人に話しかけるようにしましょう。

▼ 2



車いすの人がバスなどに乗るときに、段差があるので、運転手さんがスロープを取付け、他の人より、乗り降りに時間がかかることがあります。乗り物の中で車いすが動くと危ないので、固定する必要もあります。そのような時には、気持ちよく待ちましょう。出かけるときには、みなさんも時間にはゆとりをもって出発しましょう。

▼ 3



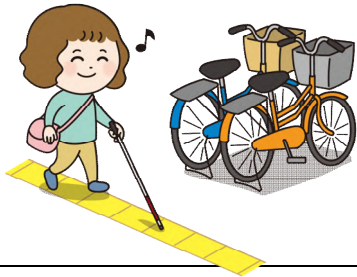
お年寄りは、体の力が弱くなったり、耳が聞こえにくかったり、目が見えにくかったりすることがあります。ベンチなど休める場所が必要です。聞こえにくい人には、文字や図を使って話をしたり、目が見えにくい人には、文字を大きくしたりする工夫が役立ちます。

▼ 4

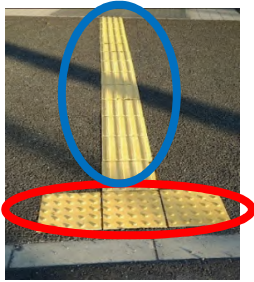


耳が聞こえない人、聞こえにくい人がいます。手話で話す人や、文字で書いて会話をする人もいます。3 ページでは、店員さんは、どのような方法が良いか聞いて、筆談で対応しています。(4 ページでは手話でやり取りするパターンを描いています。)
文字でコミュニケーションする場合、紙や手のひらに書いたり、スマートフォンなどに文字を入力する方法もあります。

▼ 5



目の見えない人や見えにくい人のなかには、黄色の点字ブロックを踏んで足の裏で感じたり、白い杖でさわりながら（さぐりながら）歩いている人がいます。ブロックの上に物が置いてあると、ぶつかって転んだり、けがをしてしまうこともあり、とても危険です。



<補足>点字ブロックには、進む方向を教えてくれる「線状誘導ブロック」（青いマルの部分）と、危険な場所や階段の前、横断歩道の前だということなどを教えてくれる「点状ブロック（警告ブロック）」（赤いマルの部分）の2種類があります。駅のホームにもあります。点字ブロックの正式名称は「視覚障害者誘導用ブロック」といいます。

▼ 6



海外から旅行にきた人たちが、案内板を見えています。英語や中国語、韓国語も書いてあるので、行先や道順が分かったようです。ほかにも、マーク（ピクトグラム）があると、より多くの人に分かりやすくなります。

▼ 7



前のページで、ヘルプマークを付けている人が困っています。ヘルプマークは、障害や病気などがあって、まわりの人に助けてもらいたいことがある人が付けるマークです。心臓の病気などは、困っていることが目に見えない場合もあります。困っているようであれば、声をかけて何かできることがないか聞いてみましょう。ヘルプマークを付けていなくても、困っているようなら声をかけましょう。

▼ 8



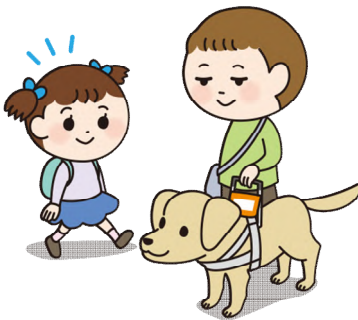
ほかの人では気にならない音でも、とても大きく感じたり、雑音が聞こえてしまったりして、つらい気持ち、嫌な気持ちになってしまう人もいます。そのような人が雑音を聞こえにくくする「イヤーマフ」を耳にあてて使うことがあります。このように音を感じすぎてしまう人のほかにも、香りの強い洗剤や香水の匂いなどで気持ち悪くなってしまう人や、肌が敏感でマスクがつけられない人などもあります。

▼ 9



病気などで、自分の力では呼吸が苦しかったり、ご飯が食べられなかったりする人もいます。サポートがあれば、いろいろな場所に出かけることができます。このイラストは、呼吸をサポートする機械を乗せて、子ども用の車いすに乗っているところです。

▼ 10

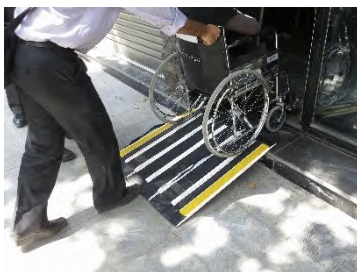


盲導犬に触ろうとしている子がいます。盲導犬は、目の見えない人が外を歩くと、安全に歩けるようにサポートするお仕事をしています。仕事なので、話しかけたり、触ったり、食べ物を見せたりしないようにしましょう。

他に、体が不自由な方の生活をサポートする^{かいじょけん}介助犬、耳の聞こえない人をサポートする^{ちょうどうけん}聴導犬もいて、盲導犬・介助犬・聴導犬をまとめて「補助犬」と呼びます。

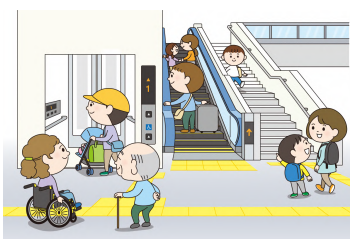
補助犬はいつも体をきれいにしていて、周りに迷惑をかけることはありません。病院やレストランなどでも、補助犬は一緒に入ることができます。

▼ 11



お店の出入口の前などに段差しかない、車いすの人やベビーカーを使っている人、大きな旅行カバンを持っている人などは中に入ることが大変です。スロープがあるとスムーズに入ることができます。取り外しのできるスロープもあるので、いろいろな人が使う場所に段差がある場合は、まえもって用意しておくことが大切です。

▼ エレベーターの使い方



車いすの人やベビーカーを使っている人、大きな荷物を持っている人など、エレベーターでなければ移動できない人もいます。エレベーターに乗りたい人がたくさんいるときなど、エスカレーターや階段を使える人はそちらを使いましょう。

▼ さまざまな見え方

コラム
色の組み合わせ

読みにくい	読みやすい
すみだ 黒と赤	すみだ 黄と青
すみだ 青と赤	すみだ 赤と白
すみだ 黄と白	すみだ うすい色とこい色

色の組み合わせによって、字が見えづらくなることがあります。また、「赤」が「濃い茶色」や「黒」のように見える人もいますなど、色の見え方は人によって違います。壁新聞やポスター、発表用の模造紙に文字を書くときには、色使いに注意して、コントラスト（明暗）をはっきりさせて、見やすいように工夫しましょう。

▼ バリアフリートイレ設備のしょうかい



バリアフリートイレは、多機能トイレ、多目的トイレ、だれでもトイレなどとも呼ばれています。車いすの人が使えるように広いスペースが確保されています。大きなベッドは、自分で体を動かすことが難しい人が、体勢を整えたり、おむつ替えをしたりするのにも使います。このベッドがないと、外に出かけることが難しくなってしまう人もたくさんいます。

オストメイト用汚物流しは、病気などの影響で人工肛門、人工膀胱になった人が使います。ベビーチェアやベビーベッドなどが整備されているトイレもあります。

※人工肛門、人工膀胱とは、病気などの影響で、今までのように便や尿をだすことができなくなった人などが、手術によって、おなかに新しく作る便や尿の出口のことを言います。その出口に専用の袋を取り付けて、便や尿をためておき、オストメイト用汚物流しに捨てます。

■P7 ポイント解説

「心のバリアフリーって何だろう？」

最後にすみダックが「みんなが思ったことや考えたことを大切にね！」と言っているように、この冊子を見て、感じたことや気づいたこと、考えたことは、すべて「心のバリアフリー」につながる事なので、どれが正解、不正解ということではありません。

■考えられる回答としては、

- ・人にやさしくすること。
- ・相手の気持ちを考えること。
- ・いろいろなバリアフリーの仕組みを知っていること。
- ・困っている人がいたら声をかける。
- ・まちや道路のバリアフリーだけではなく、気持ちのバリアフリーが大切。などが考えられます。

■何も思いつかな場合には、

「はじめて知ったことはありましたか？」

「自分にもできると思ったことはありましたか？」

「だれかに教えてあげたいと思ったことはありましたか？」

など声がけをするとよいかもしれません。

■8 ページ「あしがき」の中にも「心のバリアフリーって何だろう？」の一つの答えがあります。

まちのバリアフリー（ハード面）だけではなく、それを利用する人たちの理解（ソフト面）があってこそ、誰にとっても暮らしやすいまちになります。「心のバリアフリー」があるまちは、障害のある方や高齢者にとってだけではなく、みんなにとって暮らしやすいまちになります。

あしがき



まちではバリアフリーの取り組みが進んできました。しかし、仕組みだけではなく、私たちみんながこま困っている人の気持ちになって考えることや、行動することがより大切になってきています。

みなさんもお出かけのとき、すみダックとのたんけん探検ツアーで気づいたことを思い出しながら、まちを歩いてみませんか？